

ページ	行 図・表番	目 目	誤	正
viii	上	13	磁気鏡	磁気ミラー (鏡)
xiv	上	16	諸電極形成	諸電極形式
	上	17	ファラデー形流路	ファラデー形
3	脚注		$3 \times 10^{19} \text{cm}^{-3}$	$3 \times 10^{25} \text{m}^{-3}$
7	上	6	$n_e = \sum_j Z_j n_{ij}$	$n_e = \sum_j Z_j n_{ij}$
	下	9	$(v_j) = a^{-1} [\pi^{-1/2} \exp(-x^2)]$	$F(v_j) = a^{-1} [\pi^{-1/2} \exp(-x^2)]$
8	下	9	$\langle v^2 \rangle^{1/2} = \int v_j^2 f(v_j) dv_j =$	$\langle v^2 \rangle^{1/2} = \left[\int v_j^2 f(v_j) dv_j \right]^{1/2} =$
9	表1.1左中 表1.1		アルベン速度	アルヴェーン速度
		(A1.1.13)	$v_A/c = (\omega_{ce}/\omega_{ci})^{1/2}/\omega_{pe}$	$v_A/c = (\omega_{ce}\omega_{ci})^{1/2}/\omega_{pe}$
11	上	7	イオンとともに	イオンとともに
25	上	8	$6.1 \times 10^{-14} (n_e T_e B^2) \text{ [W/m}^3\text{]}$	$6.1 \times 10^{-20} (n_e T_e B^2) \text{ [W/m}^3\text{]}$
	上	9	$n \text{ [cm}^{-3}\text{]}$,	$n \text{ [m}^{-3}\text{]}$,
29	下	5	一様静電界	一様静磁界
32	上	2	積分 s	積分路 s
35	下	7	を形成しているとみせるので、	を形成しているとみなせるので、
37	下	12	と磁気鏡	と磁気ミラー(鏡)
	下	1	気鏡	気ミラー
38	下	6	のことから、	のことから、
40	上	2	$v_d = (\tilde{E}_\perp \times B_0^2 / B_0^2)$	$v_d = (\tilde{E}_\perp \times B_0 / B_0^2)$
43	下	5	きわめて実効静電容量	きわめて大きな実効静電容量
49	表3.2			
		(A3.2.03)	$\nabla \cdot [n(\mathbf{r}, t) \mathbf{u}(\mathbf{r}, t)] = 0$	$\nabla \cdot [n(\mathbf{r}, t) \mathbf{u}(\mathbf{r}, t)] = 0$
	左上9		ラグランジュ微分	ラグランジュ微分
		(A3.2.08)	$-K \nabla T$	$-K \nabla T$
	左下19		ニュートン流体	ニュートン流体
		(A3.2.41)	$\rho_m (Du/Dt) =$	$\rho_m (Du/Dt) =$
	右下14		Φ および	Φ および
57	上	11	密度の和、	密度および分極電流密度の和、
72	上	3	3.5.2 の	3.5.1 の
74	下	5	粒子流束 Γ_p	粒子流束 Γ_p
75	表4.1			

ページ	行 目 図・表番	誤	正
75	(A4.1.03) (A4.1.08') (A4.1.10) (A4.1.14) (A4.1.27)	$\Gamma_p =$ $(n_e k T_e / m_e \nu_{em})$ $\sim n k T \tau_m$ $= m$ $K_0 (\nu_{em} / \omega_{ce})$	$\Gamma_p =$ $(n_e k^2 T_e / m_e \nu_{em})$ $\sim n k T \tau_m / 2$ $= m / 2$ $K_0 (\nu_{em} / \omega_{ce})^2$
78	上 12	(A3.2.11)	(A3.2.12)
80	上 8	$\mu \gg \mu_i$	$\mu_e \gg \mu_i$
83	下 3	(A4.1.22)	(A4.1.23)
84	上 2	$\mu_{i\perp} = m_i \nu_{mi} / ZeB^2,$	$\mu_{i\perp} = m_i \nu_{mi} / ZeB^2,$
	上 2	$D_{i\perp} =$	$D_{i\perp} =$
	下 2	直感的には磁界の	直感的には磁界中の
85	上 12	式(1.26)	式(1.28)
86	表4.2		
	(A4.2.04)	$u_{\perp} = (B/B^2) \times [-E + (\nabla p_i / en_e)]$ $- (\nabla p / \sigma_{ei} B^2)$	$u_{\perp} = (B/B^2) \times [-E + (\nabla p_i / en_e)]$ $- (\nabla p / \sigma_{ei} B^2)$
	(A4.2.11)	$j = \sigma E + \alpha \nabla T$	$j = \sigma E + \alpha \nabla T$
	(A4.2.12)	$Q = -\beta E - K \nabla T$	$Q = -\beta E - K \nabla T$
	(A4.2.14)	$E = -\alpha \nabla T / \sigma$	$E = -\alpha \nabla T / \sigma$
	(A4.2.15)	$Q = -\xi K \nabla T$	$Q = -\xi K \nabla T$
	(A4.2.24)	$(A_i^{1/2} Z^2 \ln \Lambda)$	$(A_i^{1/2} Z^2 \ln \Lambda)$
	(A4.2.27)	$= -\eta_{\perp} \nabla^2 u$	$= -\eta_{\perp} \nabla^2 u$
87	上 12	$/\sigma_{ei} B^2] \nabla n_e$ と	$/\sigma_{ei} B^2] \nabla n_e$ と
89	下 6	4.2.8 の2.	4.3.4
90	下 8	$j_{\perp} \times B = \Phi$	$j_{\perp} \times B = -\Phi$
	下 3~2	には顕著に寄与	に顕著には寄与
92	上 12	とその関連	との関連
95	上 7	4.1	4.1.2
96	上 12	$\langle (\Delta_{\parallel})^2 \rangle$ および	$\langle (\Delta v_{\parallel})^2 \rangle$ および
	上 13	(4.1.1 末尾の	(4.1.2 の
	下 6	散乱を起こす	大角散乱を起こす
	下 5	35) または式 (1.36)]	22) または式 (1.23)]
97	表4.5		
	(A4.5.19)	$= v^3 / A_p [\Phi(x) - G(x)]$	$= v^3 / A_p [\Phi(x) - G(x)]$
	の下の式		
	(A4.5.27)	$\tau_s = -v_1 / \langle \Delta v_{\parallel} \rangle$	$\tau_s = -v_1 / \langle \Delta v_{\parallel} \rangle$

ページ	行 図・表番	目 番	誤	正
98	上	5	の 4. に示した	の 4. の表 1.2 に示した
101	上	2	式(A4.5.6)より	式(A4.5.3)の下式より
102	下	12	式(A4.5.18)	式(A4.5.28)
110	上	11	テンソル $\Delta \cdot p$	テンソル $\nabla \cdot p$
	下	13	ρ_e を	ρ_e の項を
111	下	6	式(1.31)	式(1.19)
112	下	5	(5.8)	(5.8.1)
	下	3	式(1.25)	式(1.13)
117	表5.1			
	(A.1)		$(u_{i1})_x = \dots; (u_{e1})_x =$ $(u_{i1})_y = \dots; (u_{e1})_y =$ $(u_{i1})_z = \dots; (u_{e1})_z =$ $(u_{i1})_x \dots$	$(u_{i1})_x = \dots; (u_{e1})_x =$ $(u_{i1})_y = \dots; (u_{e1})_y =$ $(u_{i1})_z = \dots; (u_{e1})_z =$ $(u_{i1})_x \dots$
	(A.2)		$(u_{i1})_y \dots$ $(u_{i1})_z \dots$	$(u_{i1})_y \dots$ $(u_{i1})_z \dots$
	上 8		式(5.15) および式(5.16)]	式(5.11) および式(5.12)]
	(A.3)		$= \left(\frac{k}{\omega} \right) \left(\frac{en_0}{z_i m_i} \right)$	$= \left(\frac{k}{\omega} \right) \left(\frac{en_0}{Z_i m_i} \right)$
	上 11		[式(5.6)]	削除
	下 13		[式(5.7)]	削除
	下 9		[式(5.8)]	削除
	下 7		[式(5.9)]	削除
	下 5		式(5.25)	式(5.24)
118	上	5	E_1 だけの式が得られ, $E_1 \neq 0$	E_1 だけの式が得られ, $E_1 \neq 0$
	上	12	二次式	二次方程式
	下	12	式(5.26) の	式(5.26) または式(5.27) の
120	上	8	下側	下側
123	図5.10		(横軸の量記号)	k
124	上	4	式(1.33)	式(1.20)
127	上	13	50) から	49) から
129	上	10	p.(116)	p.(117)
135	上	2	指導	指摘

ページ	行 図・表番	誤	正
135	下 2	ルギーを波から奪う。すなわち、前者は波の振幅増大(増幅)に、後者は減衰に寄与す	ルギーの一部を波に与える。すなわち、この場合には波の振幅増大(増幅)に、逆に $v_x <_{ph}$ の粒子は減衰に寄与す
143	上 2	対応	相当
152	脚注 下1	縦溝形安定性	縦溝形不安定性
154	上 13	式 (2.13)	式 (2.14)
	下 3	図 6.10	図 6.10(a)
156	下 9	上の3式	上の4式
159	上 8	$[v_A; (5.34)式]$	$[v_A; 式(5.33)]$
	下 2	$v_{de} =$	$v_{de} =$
	下 1	$v_{di} =$	$v_{di} =$
160	下 12	また	また以下温度定数 T_e にはボルツマン定数が含まれるとして省略すると
	下 10	$v_s = (Z_i k T_s / m_i)^{1/2}$	$v_s = (Z_i T^e / m_i)^{1/2}$
	下 9	$\kappa = \Delta n_0 / n_0 $	$\kappa = \nabla n_0 / n_0 $
163	上 12	開放形磁界容器	開放形磁気容器
166	下 4	4.2.8 の 1.	4.3.1
167	上 12	4.2.8 の 1.	4.3.1
171	(6.35)	$U = \min_{\delta\phi \rightarrow 0} [\delta V / \delta\phi]$	$U = \lim_{\delta\phi \rightarrow 0} [\delta V / \delta\phi]$
174	上 3	式(5.34)	式(5.33)
	上 13	式(5.34)	式(5.33)
177	(6.44)	$= k_{\perp}^2 (\kappa T_i / m_i \omega_{ci}^2)$	$= k_{\perp}^2 (T_i / m_i \omega_{ci}^2)$
178	(6.48)	$(\kappa T_i / Z_i e B)$	$(T_i / Z_i e B)$
182	上 12	6.8.9	6.8.4
	下 7	(6.3.2 の b.)	(6.3.2)
186	下 4	デバイ距離	デバイ長
187	上 1	4.2.8 の 2.	4.3.4
	上 8~9	1.6.6),	1.6),
202	下 4	または	また
203	下 8	$(\rho_1, T_1, m_1, \text{および})$	$(\rho_1, T_1, m_1, \text{および})$
208	上 15	損失機構	損失機構
209	上 9	1.3.5)	表1.1)
219	上 14	1.6.6	1.6

ページ	行 図・表番	目 番	誤	正
231	脚注	下2	Frequency	Frequency
233	上	9	図5.18(a),	図5.18(c),
	下	5	上部ハイブリッド	高域ハイブリッド
	下	4	[式(5.7)]	[式(5.57)]
234	下	12	式(5.60)	式(5.58)
235	上	9	大プラズマ電流駆動	大プラズマ電流駆動
	下	13	2.5.1	2.5 の 1.
	下	4	$T \propto V^{-2/3}$ で	$T \propto V^{-2/3}, n \propto T^{3/2}$ で
	下	2~1	たとえば, トーラスプラズマへの適用を考えてみると (図 9.5), 温度が低くて粒子間衝突のため, 上述のように, $n \propto T^{3/2}$ がなりたつ場合には, 第 13 章の図 13.4 に示す	たとえば, 温度が低くて粒子間衝突のため, 上述のように, $n \propto T^{3/2}$ がなりたつ場合のトカマクプラズマの適用を考える。この場合, 第 13 章の図 13.4 に示す
236	上	1	磁界 B_t ,	磁界 B_r ,
	上	2	いる。	いる (図 9.5)。
	上	3	① B_t	① B_r
	上	6	(3.7.9)	(3.7.3)
	上	7	$a^2 B_t = \text{一定}$,	$a^2 B_r = \text{一定}$,
	下	9	$B_t \propto R^{-1}$ であ	$B_r \propto R^{-1}$ であ
254	上	7	(6.2.1)	(8.2.1)
	下	15	(10.3.3)	(10.3.2)
257	上	1	8.3.1 (図 8.15) や 8.4.1 (図 8.17)	8.3.1 (図 8.16) や 8.4.1 (図 8.18)
261	脚注	下2	電磁的ピンチ (6.5.1)	電磁的ピンチ (1.4.2 および 6.5.1)
262	下	6	(7.3)	(7.3 および 7.5)
267	下	8	流体が流れ	流体が速度 u で流れ
268	図 12.1(b)		$UBD = V_0$	$uB_0 D = V_0$
	下	4	式 (A3.2.32')	式 (A3.2.32)
269	上	5	ファラデー形流路	ファラデー形
270	脚注	下1	まとめることになる。	まとめることが必要になる。
271	脚注	下2	拍出効率	抽出効率
274	脚注		*1	p.278 の脚注へ
275	上	1	[図 8.14(a)]	[図 8.15(a)]
	上	3	MPD アークジェット	MPD アークジェット *1
	上	5	いる *1.	いる *2.

ページ	行 図・表番	目 番	誤	正
275	下	3	ある* ² .	ある* ³ .
	脚注	下5	*1	*2
	脚注	下3	*2	*3
276	下	10	式(A3.2.39)	式(A3.2.40)
	下	9	同式(A3.2.40)	同式(A.3.2.41)
	下	7	(A3.2.40)	(A.3.2.41)
277	(12.20)		$M_H =$	$M_H^2 =$
	脚注	下3	式(10.19)	式(12.19)
	脚注	下2	$u_z(z) =$	$u_x(z) =$
	脚注	下1	(10.19)	(12.19)
278	下	6	前項 12.3.1 で述べたとおり	前述のとおり
280	上	8	図12.8(b)と	図12.8(b)の
284	下	7	(13.4)	(13.4.2 の 2.)
287	脚注	下1	[1.6.6 の 3.]	[1.6 の 3.]
290	下	3	6.8.3	6.8.5
296	下	7	JT-60装置	JT-60U 装置
297	図13.8		JT-60V	JT-60U
	下	5	6.8.1 の 2.の①	6.8.1 の 4.の a.
302	上	6	[式(4.70)~(4.72)]が大きい ため、逃走電子 (4.4.7)	[表4.2の式(A4.2.01)]が大きい ため、逃走電子 (4.6)
304	上	8	[図8.14(a)]	[図8.15(a)]
	下	11	(図8.11)	(図8.12)
307	図13.14			(文部省核融合科学研究所発行 パンフレットより)を<追加>
308	下	5	図8.14(a)	図8.15(a)
309	(13.19)		[式(4.19)]	[式(1.11)]
313	上	6	[式(2.26)の	[式(2.15)の
316	脚注	下1	$\sim 10^{31} \text{m}^5$ で、	$\sim 10^{31} \text{m}^{-3}$ で
318	上	12	(図8.15)	(図8.16)
328	図13.25		図 13.25 磁気閉込め核融合炉 および発電プラントシステムの 概念図	図 13.25 磁気閉込め DT 核融 合炉およびその発電プラントシ ステムの概念図
329	下	6	(13.4.4 の 1.)	; (13.4.3 の 1.)
335	下	6	(図13.25右下	(図13.25右上側
336	下	6	度)を受ける	度)を受ける

ページ	行 図・表番	目 番	誤	正
337	下	7	19.4.2	13.4.2
341	下	10	(▲)	(★)
342	表14.1脚注		*	(*)
344	下	4	4.2.2 の式(4.19)	式(1.1)
			(14.2) $[V_i - V_e$	$[v_i - v_e$
345	上	5	$V_f < V < V_i$	$V_f < V < V_s$
348	下	6	式(5.50)	式(5.40)
350	下	6	d. で (図5.15)	d. (図5.15)
	下	3	右辺の ω_{pi}^2 の項を無視して	これより
351	(14.10)		$\int_0^L n_0(z)$	$\int_0^L n_e(z)$
353	下	6	[式(1.25)]	[式(1.15)]
354	上	1	その波長幅	その波長半値幅
257	脚注 下3		プラズマ・各融合合学会編	プラズマ・核融合学会編
259	上	1	別途電子温度	別途電子密度 (n_e) と電子温度
262	下	4	[1.6.6 の 2.]	[1.6 の 2.]
273	上	15	(4.4.4 の	[4.5.2 の
374	下	12	14.3.1	14.4.1
	下	10	14.3.3 の a.	14.3.3 の 1.
376	下	2	14.4	14.4.1 の 1.
380	上	8	4.4.2	4.5.2
381	上	15	(9.1	(9.1.1
382	下	3	入射が	入手が
383	上	4	レーザ励起蛍	レーザ誘起蛍
385	上	14	レーザ励起蛍光法(14.3.5)	レーザ誘起蛍光法(14.3.5 の 1.)
	下	10	手段(計測	基本的方法論および計測
	下	9	物理量) の	物理量の
387	(A2.1.1)		$v_y =$	$\dot{v}_y =$
389	(A2.3.3)		$v_c = v_p + v_c'$	$v_c = v_p + v_c'$
	下	10	$E(X + \xi)$	$\tilde{E}(X + \xi)$
392	上	3	速度 v_D は	速度 v_D は式(2.4)より
392	下13~12		すなわち本文式(3.29)で	すなわち $-\partial B / \partial t =$
394	上	2	式(2.40)	式(2.23)
397	下	14	式(A1.1.2), (A1.1.3), (A1.1.8)	式(A1.1.2), (A1.1.8)

ページ	行 図・表番	目 番	誤	正
398	下	8	式(3.26)	式(3.27)
	下	2	式(3.26)	式(3.27)
400	上	9	式(5.34)	式(5.33)
	上	11	式(5.41)	式(5.40)
	下	13	式(5.60), (5.52),	式(5.58), (5.51),
	下	12	(5.59)および(5.53)	(5.57)および(5.52)
	下	7~6	の右辺第2項のイオンの寄与は無視できて,	を用いて,
402	上	2	(a)8.1.2の2.参照,	(a)8.1.1の2.参照,
	下	11	9.2.1,	主に9.2.1,
403	上	3	式(5.59)の高域ハイブリッド共振が $f_{ce} \sim 69.4\text{GHz}$,	式(5.57)の高域ハイブリッド共振が $f_{UH} \sim 69.4\text{GHz}$,
	上	5	[式(5.53)]	[式(5.52)]
	上	14	(h) 10.5.2 参照.	(h) 10.5.2 参照, (i) 10.5.3 参照.
404	上	7	式(12.16)	式(12.15)
	上	9	17) から	16) から
	上	16	[式(12.21)]	[式(12.20)]
406	下	3	本文 13.4.2 の	本文 13.4.2 の 2. の
407	上	1	受動的方法	受動的方法
	上	3	能動的方法	能動的方法
	上	4	プローブ法	プローブ法
	上	5	電磁波計測や全放射エネルギー計測	電磁波計測や全放射エネルギー計測
	上	6	分光計測	分光計測
	上	8	粒子計測法	粒子計測法
	下	9	ビームプローブ法	ビームプローブ法
	下	6	14.3 参照.	14.3.1 参照.
	下	5	14.5.3 の 3. の b. 参照.	14.5.3 の 4. 参照.